

あまみず

雨水利用を進める
 全国市民の会
 会長 辰濃 和男
 〒131 東京都墨田区東向島
 1-8-1
 ☎ 03-3611-0573
 FAX 03-3611-0574

21世紀は雨水の時代



特集 「雨水利用自治体・市民フォーラム」

8月7日・8日・9日 すみだりバーサイドホール・墨田区役所

8月7日(金) 9時30分～17時

雨水利用自治体フォーラム

開会式

基調講演

「都市の持続可能な水戦略」

講師 ユハ・ウイット

(国際連合大学 学術審議官 理学博士)

高橋 裕

(芝浦工業大学客員教授)

政策報告

環境庁水質保全局長

東京都政策報道室参事

(循環型社会づくり担当)

市民からの提案

辰濃 和男

(市民フォーラム実行委員会会長)

雨水利用自治体サミット

「21世紀の雨水利用を展望する」

議長 高橋 裕

出席予定者

墨田区長 奥山澄雄 川口市長 岡村幸四郎

鎌倉市長 竹内 謙 神戸市長 笹山幸俊

高松市長 増田昌三 沖縄市長 新川秀清

宣言発表

(雨水利用自治体担当者連絡会総会)

8月8日(土) 10時～16時

雨水利用市民フォーラム

市民が中心となって実行委員会を結成し、企画・運営を行います。市民や建築士、業者間さらに海外の研究者や実務家とのネットワーク会議などを通じて意見交換や相互交流を図ります。



スケジュール

雨水利用自治体・市民フォーラム

8/7日 自治体フォーラム

当日、市民の参加は歓迎しますが、企画・運営は「雨水利用自治体担当者連絡会」です。

8/8日 市民フォーラム

我々が「雨水利用を進める全国市民の会」を中心に、水に関心を持つ多くの市民団体、個人が参加する「市民フォーラム実行委員会」(会長・辰濃和男氏)の主催です。参加団体は「よこはまかわをを考える会」「富士山の湧き水を守る会」「東京都建築士事務所協会墨田支部」「八王子ランドマーク」「利害しんせつ協会」「日本下水文化研究会」「MU・TEN・KA倶楽部」「墨田区東駒形1丁目婦人会」「墨田区横川4丁目婦人会」「沖縄県雨水利用を進める市民の会」「まつやま雨水利用を進める市民の会」「香川県雨水利用同好会」「雨水利用を進める会・関西」などです。

雨水利用運動の大きなキャンペーンであり、収穫にもなるこのフォーラムを、市民のパワーで、ぜひ成功させましょう！ご参加をお願いします。





8/8「雨水利用市民フォーラム」の全体企画として、「雨水の時代を拓くーグローバルネットワークを目指してー」と題して、海外からの報告と雨水利用ネットワーク会議を行います。

海外からの報告

ピーター・トーマス氏 (ベルリンNGOグループ)

ピーター・トーマスさんは、ベルリンをエコシティにしていくために市民グループを組織し、ビオトープづくりや太陽電池、雨水利用、生活排水の有効利用、建物の緑化など、環境共生型のまちづくりに取り組んでいます。

3年前、私たち雨水利用を進める全国市民の会のメンバーは、彼にその現場を見せてもらいました。ベルリンの再開発地区で、彼は既存のビルの地下空間を利用して雨水を溜め、屋上にポンプアップして緑化の散水に使っていました。ここの雨水利用はとてもシンプルで、プラスチックの網カゴでろ過している程度でした。墨田区の路地尊そっくりな雨水利用システムもありました。溜めた雨水を手押しポンプでくみ出すのです。

ここのビルには新たにコジェネレーション設

備と太陽電池を導入し、省エネにも配慮されていましたが、何といても圧巻だったのは、各階の壁面にプラスチックのドラム缶を半分に切ったものが壁に張りつけられ、そこにアシを植え、生活排水を屋上から下のほうの階に向かって流し、浄化と壁面の緑化を試みていたことです。また、集合住宅の敷地内にアシを生やし、生活排水をそこに流し、ビオトープづくりと生活排水の浄化対策の試みもありました。

このピーター・トーマスさんたちの市民グループは、ベルリンでエコシティの成果を着々と上げているようです。私たちの雨水利用を進める全国市民の会も雨と共生し、エコシティを目指しています。ベルリンのエコシティと雨水利用などの試みは、きっと私たちのこれからの活動に示唆を与えてくれるに違いありません。

雨水利用ネットワーク会議

市民、事業者、行政、それぞれの立場から雨水利用の取り組みの現状を報告し、雨水利用のネットワーク化の課題について話し合われます。

パネリストには、

(財)地球環境戦略機構・上席研究員のグレン・パオレットさん

墨田区異業種グループNOVA'90の松本正毅さん

大林組エンジニアリング本部設備課長の小川幸正さん

沖縄市水道局工務課長の伊礼弘さん

墨田区環境清掃部・環境保全課環境推進係長の村瀬誠さん

を予定しています。

雨水利用の推進には、市民、事業者、行政の一体的な取り組みが必要です。この三者のネットワーク、しかも、地球的なネットワーク化に向けて、私たちが行ってきたこと、私たちにできることなどが話題に上るのではないのでしょうか。



フォーラムに向けて 雨水川柳・ポスターセッション募集中

市民フォーラムに先駆けて、恒例の雨水川柳を募集しています。五・七・五のリズムに乗せて、雨水のことや、雨水利用の大切さを謳ってください。

応募要綱は、ハガキまたは封書に、川柳（一人3点まで）と住所、氏名、職業（所属）、電話番号を明記して、6月末までに事務局へ送ってください（今回は、応募用紙はありませんので、ご注意ください）。FAXでも受け付けています。

なお、優秀作品には、来年のカレンダー『雨暦'99』に作品が掲載されるという名誉と合わせて、そのカレンダーが贈られます。ふるってご応募ください。

市民フォーラムの当日に行う、ポスターセッション（ポスター展示による発表）の参加者も募集しています。現在のところ、国内外合わせ

て約20のグループの参加が予定されています。

今回の発表の場は、展示会と同じ場所で行いますので、かなりの方の目に触れることが予想されます。実用化されているものはもちろん、ひらめいたばかりのアイデアでも構いません。

「雨水を大切にしたい」という気持ちを行動に移すための、有意義な発表をお待ちしています。

応募に関しては、フォーラム当日に配付するパンフレット作成のため、6月中旬までに発表原稿の提出が条件となりますが、参加の意志のある方は、取り急ぎ事務局までご連絡ください。

優秀発表者には、すてきなプレゼントが贈られます。

今からでも遅くはありません。ひらめきをつかまえてみませんか？



市民フォーラム第3分科会

パネルディスカッション

「私の町の雨水利用」

暮らしの中で雨水利用に取り組む人達に、活動の内容などを話していただき、交流を深めます。

コーディネーターは、当会の会員で、八王子ランドマーク研究会でも活発に活動している石田幸彦さんです。

パネリストは…？ ご紹介しましょう。

宮本恒子さん

墨田区東駒形一丁目婦人会で雨水利用に取り組んでいます。空き缶回収で得たお金で購入した雨水タンクは、街角の多くの場所で利用されています。

加藤俊作さん

徳島大学大学院の教授です。

1994年の高松市の大渇水の実験から「香川雨水利用同好会」を結成しました。雨水利用技術の開発に日々取り組んでいます。

桑島正治さん

「まつやま雨水利用を進める市民の会」の会員で、雨水利用の普及運動をしています。その活動の一環として、地元のカーニバルでは、多くの子供たちを巻き込んで「雨水サンバ」を踊り、毎年、参加人数を増やしているとのこと。

樋口利明さん

北陸の「しんせつ利雪協会」の会員です。雪を迷惑がるのではなく、積極的に利用しようという発想で、雪を活かした地場産業の活性化、雪冷房住宅の普及などに力を注いでいます。

ピーター・トーマスさん（予定）

ベルリン都市環境グループに所属。午前中に「海外からの報告」をしていただくほか、このパネルディスカッションにも参加します。

8 / 8分科会「これからの雨水利用建築」に寄せて

なぜ「安価で良質な住宅」なのだろう

(いただいたお題と個人的に悩んでみた中間報告)

佐原 滋元

最初に、「雨水利用は地球を救う」という理念を確認しておきたいと思います。

まず、「なぜ住宅なのか?」。人間が作り上げる建築物の中で、圧倒的な数、面積を住宅(人が住まう建物)が占めているということです。住宅などの建築物は、外部の環境から人の健康や生活を守るため、雨・風などへの対処方法が発達していて、雨水を集めるための技術はすぐにも転用できます。

しかし、「なぜ、安価なのか?」。これら、住宅の大多数は、個人的資産です。したがって、一定の減税処置はあるもの、経費ともならず、ただお上に税金を納めるための資産になり、人々はローン地獄に陥ります。だから絶対に安くなくてはならないのです。(地獄に苦しむ個人的意見)。だが、「安価と良質は両立するのか?」。お金を使うことに喜びを感じる人には関係ないことです。良質な住宅とは、機能によって計られます。特に構造や設備では、その働きが重視されます。

ここで、働きの程度、雨水について例えば、常時飲料水なのか、雑用水として使うのか、が問われます。常時飲用する場合には、保健衛生と効率の面から、高度な浄水機能が要請され、ある程度高価なものになるでしょう。このような問題では、より安価(簡単)に、雨水の利用内容とそれを実現させるに必要な技術についての情報交換がなされるでしょう。



最後となりますが、もっとも大切なことは、住宅に生息するのは人間であり、その人間は、自然環境と関係を持たないと「からだ(身も心も)」がもたない、ということです。自然としての「雨」を住宅に導入するについては、そのような「質」についても話し合えればと思います。

市民フォーラム

打ち上げ・交流会

8月8日夜、フォーラム終了後に交流会を予定しています。

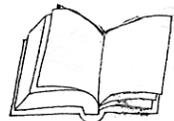
ビールなどの飲み物はもちろん、盛り沢山の軽食・おつまみを用意します。

未来の雨具、「アイデアレインコート」のファッションショーなどはいかがですか?

企業の協賛による、素敵な景品があたる(外れなし)「福引」なども企画中です。

会費は3000円ポッキリの予定。次号で詳細をお知らせいたします。

新刊・案内



○辰濃和男

『漢字の楽しみ方』

悪字の数々を弁護する!

岩波書店 1400円+税

迷・傷・落・老・愚など31の漢字を一字ずつ取り上げて弁護する、ユニークな随筆。嫌われがちな漢字の味わいを語りながら展開する、文明論に共感する。

○『循環編・燃えるごみ、燃えないごみ』

労働旬報社 2000円

雨水利用の環境教育の本です。3人の小学校の先生と、村瀬誠さん、人見達雄さんが執筆しています。

都市に無数のミニダムを

「雨水建築士」のススメ

村 瀬 誠



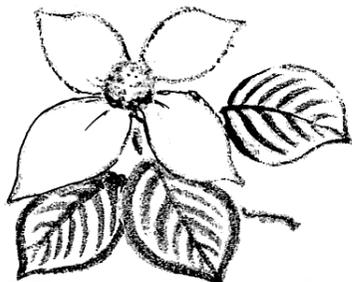
1 ミニダムの時代がやってきた

1994年の全国各地を襲った大渇水、1995年の阪神大震災。この二つの事件は、はからずも遠方のダムと、そこからの給水ラインに全面依存した都市の脆弱性を、白日のもとにさらけ出したといえるのではないか。もし大渇水の時に、阪神大震災のような大地震が東京を襲ったら、東京は一体どうなってしまうのだろうか。想像しただけでもぞろぞろしくなる。

大渇水と大震災から学ぶべき水政策の教訓。それは「遠くの水源と給水ライン（ライフライン）への全面依存」から「自前の水源の確保とライフポイントの強化」への転換であろう。

東京は水が足りないといっている利根川の上流に巨大なダム開発を求めてきたが、ダム開発は限界に達しつつあり、計画されたダム開発も遅々として進んでいない。加えて既設のダムも年々堆砂で有効貯水量が減少する運命にある。また、そもそもダム開発自体、大規模な自然破壊を伴い、多くの田畑や山林を水没させ、そこに住む人達に多大な犠牲を強いることになる。とすれば、これからの東京は、雨水などの自前の水源で、できるだけ水源の自立を目指すべきではないだろうか。溜めた雨水はライフポイントとしての役割もある。

雨水利用のねらいは都市のなかに無数のミニダムを建設することにある。無数のミニダムは巨大なダムに匹敵する。なにしろ、東京には年間に使われる水道水を上回る雨が降っているのだ。この



雨をみすみす下水に流す手はない。

2 雨水利用の助成自治体が増えてきた

都市におけるミニダム建設は利水、治水、防災の面で有効である。墨田区は今から約3年前ほど前に雨水利用の政策決定を行った結果、こんな結論に達した。墨田区のビルや住宅で計画的に雨水利用を導入していくと、例えば、一定の条件のもとで区内の30%の建物に雨水利用を導入したとすると、区内の9.8mm/分の降雨のピークカットができ、雨水の流出抑制に大きく寄与すること、40日近く雨がなくても一日約2400㎡近く給水できること、このことは墨田区民一人当たり一日約11ℓを給水できることを意味する。都の防災計画において給水量が一日3ℓとなっていることを勘案すると、防災用水としても意味が大きいということが分かったのである。

区ではこの結果を受けて、昨年10月から日本初の本格的な雨水タンクの助成に踏み切った。メニューは200ℓの小規模タンク、0.5㎡以上の中規模タンク、地中梁を利用した5㎡以上の大規模タンクで、最高100万円まで助成する。助成制度を開始して約一年が経過したが、すでに小規模タンクを中心に43基の雨水タンクが助成を受けている。墨田区が日本相撲協会に申し入れて国技館の雨水利用の導入にこぎつけた15年ごろは、都内の雨水利用施設数は数十だったが、今では官民合わせて約450を数えるようになった。近年では、東京では多摩市、台東区、都外では沖縄県、愛知県豊田市、神奈川県鎌倉市、埼玉県越谷市など民間の雨水利用設備の設置に対して融資や助成をする

自治体が増えてきている。

また1996年には、墨田区の「自治体間雨水利用ネットワーク」の呼びかけがきっかけとなって、自治体の実務者レベルでの雨水利用の情報交換、政策交流を行う「雨水利用自治体担当者連絡会」が発足した。この連絡会には毎年のように水で苦労している沖縄県、福岡県をはじめ、雨水利用を取り入れて災害復興に取り組む神戸市など数多くの自治体が結集しており、その数はすでに70を越えている（代表幹事：墨田区）。さらに、近年ではこうした自治体の動きと連動して「雨水利用を進める市民の会」に見られるように市民レベルでの雨水利用のネットワークも全国的な広がりを見せつつある。

3 求む、雨水利用建築士！

しかし、行政や市民にこのような動きがあったとしても、なんといっても建築士の後押しがなかったら雨水利用の推進はうまくいくはずがない。そこで、今後雨水利用を一層推進していくために、建築士事務所協会に二つ提案をしたいと思う。一つは市民の雨水利用の設計相談への対応だ。現在、住宅の雨水利用でまとまった本といえば、『やってみよう雨水利用』（北斗出版）ぐらいである。1994年夏に向けて雨水利用東京国際会議を準備していたころ、同会議実行委員会事務局には全国各地の市民からたくさんの雨水利用の設

計相談が寄せられた。それならこうした声に少しでも答えていこうと作成されたのがこの本だ。この本がすでに一万部が世に出て今も読まれ続けるところをみると、雨水利用に関心を持つクライアントが増えているということだと思う。ぜひ今後こうした声に具体的に答えていくためにも、建



築士事務所協会が地元の自治体と一体となって市民の雨水利用の設計相談や情報提供にに応じていただけないだろうか。

もう一つは、雨水利用建築士の育成である。雨水利用を実施設計している建築士は現状では数えるほどである。一昨年、墨田区は雨水利用に関する講座を5回にわたって開催したところ、参加者の多くが建築士だったということは、建築士の雨水利用に対する関心が高いということではないだろうか。今後、建築士事務所協会が雨水利用をこれからの新しい建築設計の基本として位置づけ、雨水利用建築士を育成し、たくさん世に出してほしいと思う。（東京都建築士事務所協会の会報「コア東京」に、昨年3月に掲載され、優秀賞を得たものを転載しました。）

「新しい水計画に、雨水利用の位置づけを」 国土庁への意見をどうぞ

21世紀に向けて、新しい水資源計画を策定している国土庁が、広く一般からの意見を募集しています。

水資源計画とは、主に将来の水需要を割り出すものでダムなどの事業が進められる基本となるものです。今の水資源計画は、昭和62年に立てられたもので、どんどん水需要が増えるという確信に基づいています。そしてまた、再利用水や雨水利用（「雑用水」と表現）についての考慮は全くされていない現実に反した計画です。

さてそこで、市民の会のメンバーとして、雨水利用などの動きを国土庁に伝え、計画の中にしっかりと位置づけてもらうよう、意見を出してみたいかがでしょうか。

締め切りなし。要領は、氏名・年齢・性別・職業・住所をそれぞれ書ける範囲で明記し、〒100-0013霞ヶ関1-2-2 国土庁水資源調査室「ご意見募集係」まで直接送付。

FAXは、03-3501-6548、

電子メールは、mizkei@nla.go.jp です。



皆でつくろう「雨水事典」

—制作チーム発足—



長尾 愛一郎

「楽しく読めて使える事典」を
会員の皆さん、お元気ですか。「市民の
会」では新年度の事業として、「雨水事典」
の制作にとりかかることになりました。水の
全般を扱った百科事典はすでに出版されてい
ますが、雨の事典の刊行は、「雨暦」ととも
に世界で初めての試みとなるでしょう。出版
は2000年を予定しています。

すでに「事典」制作チームが決まり、4月
14日に最初の編集会議がひらかれました。こ
れから会議を重ねながら構成を煮つめていき
ますが、雨をもたらす水の循環から八代亜紀
の「雨の慕情」まで、雨のことならなら何も
わかる事典にしようと話し合っています。

編集にあたって次の点をこころがけます。
第一に、雨水利用東京国際会議以来つちかっ
てきた「市民の会」の成果をもちこむこと、
第二に、私たちの今後の実践への足がかりに
なるような内容にすること、第三に、できる
かぎり自前の調査による記述をすることです。
事典には、学術的要素の強い専門書から読
み物までいろいろありますが、今回の「雨水
事典」は後者に近いもの、「楽しく読めて使
える事典」をめざしたいと思います。ただし
水準を落とさず内容の濃いものを追求するこ
とはいうまでもありません。

情報をお寄せください

制作チームのメンバーだけが事典にかかわ

るのでなく、会員の皆さんとともに作成
していきたいと思います。別紙のように
「雨水事典」情報カードを作りましたの
で、内容に関してアイデアや情報をお寄
せください。

編集への参加をご希望の方、また、「こ
のテーマはぜひ自分で執筆したい」とお
考えの方もご一報ください。

おわりに制作チームのメンバーを紹介
いたします。

村瀬誠、糸賀幸子、上林裕子、菊池隆
子、佐原滋元、柴早苗、高橋泰子、田中
清子、徳永暢男、仲井圭二、長尾愛一郎、
松本正毅、松本真理子、村本恵子

今年も作ります。 カレンダー「雨暦」 '99年版



好評の「雨暦」は、8月の雨水利用市民フォー
ラムで見本を発表するため、2月から企画に入
っています。去年は、70万円近い利益が計上
されましたが、もちろん、一番の目的は雨水利
用の宣伝・広報的役割です。

ぜひ、お知り合いに声をかけて、ご活用くだ
さるよう、お願いします。

50本以上予約される協賛企業の名称は、大
きくカレンダー下部に印刷します。

(50本まで一部1400円、51本以上1200円です)
企画メンバーは次の通りです。

宮本文緒(デザインルーム・ロゴ)、松本真理
子、徳永暢男、柴早苗、大塚康三、村瀬誠



電話で

みんなは

今年から
ヒゲはえはす



松本正毅さん

工業デザイナー

松本さんは、雨水利用に関心を持ったきっかけを「ベランダに40個もあるプランターに水をやるのに、雨水を使おうと思って」と語ります。こうした素朴なきっかけから、雨水利用を進める雄大な提案へと発展していきます。

松本さんの仕事は工業デザインです。家具から「まち」まで、幅広く手がけています。その技術を使って、雨水利用を取り入れた、さまざまなデザインを発表しています。

今までの作品には、名古屋市主催の「デザイン名古屋'96」で入賞した「雨にうるおう道」、「'97雨水フェアinおきなわ」で提案した「アーケードの雨水利用」などがあります。

この4月に、松本さんの「キャナルピレシジ(運河村)」という作品が、東京都主催の「レインボータウンまちづくり都民提案」で

優秀賞に選ばれ、表彰されました。住宅、オフィスの間を流れる、雨水を利用した水路にシンボル性をもたせており、「複雑に街をつくるけど、真ん中の川に行ったら街全体が見えるように、空間的につくった」という、ユニークな作品です。

「現在の関心は、墨田で行われている、異業種交流の雨水プロジェクトで、雨水関連の商品開発をすることです」と、松本さんの雨水利用の活動はさらなる広がりをみせます。どんな商品ができるのか楽しみです。

※「レインボータウンまちづくり都民提案」の入賞作品は、以下で展示されます。

場所 都議会議事堂1F 都政ギャラリー
期間 5/7(木)～21(木)、土日を含む
時間 9時～5時

(こ)

「全国市民の会」と、看板をかけ変えたのによって、事務局体制も刷新しました。

原則として、月、水、金、の午後1時半より5時までは、事務局員が分担して待機します。内外からの問い合わせや連絡に、確実に対応してゆけるよう、磯村、高原、田中の3人、はりきっています。

とはいうものの、この4月は、新年度のスタート時期のため、いっせいに活動が始まって悲鳴をあげています。連絡のための文書の印刷や発送事務に追われ、一方では決算報告や予算案作りのために、会計担当は帳簿の整理に血まなこなっています。

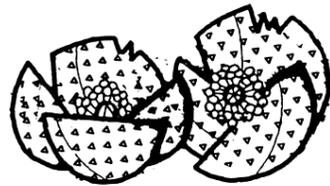
さて、既にご連絡したように、5月6日に定期総会が開催されます。新規約にもとづき、今回の総会から、全会員の出欠の確認が不可欠です。

遠隔地の会員の皆様には東京での総会出席が難しいとはお察しますが、その場合、ぜひ委任状をご提出くださるようお願いいたします。

なお、5月以降、国際化する活動に対応できるよう、ケイト・ストロネルさんに月2回は事務局員として詰めていただく予定です。ご期待下さい。

(田中)

事務局だより



5月の活動予定

- 5/6 雨水利用を進める全国市民の会
総会
午後6時半～ 墨田区役所13F
- 5/11 雨水利用市民フォーラム実行委員会
・幹事会
- 5/19 「雨水辞典」編集会議
- 5/22 雨水利用市民フォーラム実行委員会
- 5/27 エコ・パートナーシップ東京会議
「水循環・生態系」(分科会C)
午後1時45～5時
東京国際フォーラム(有楽町下車)
- 5/28 タイのジョニ・オダジョ氏、ドイツの
クラウス・ケニヒ氏を迎えて
雨水交流会
6時半から・墨田区役所

